

北海道新型コロナウイルス感染症対策本部 第61回本部会議 記録

日 時／令和3年6月24日（木）

16：00～16：25

場 所／本庁舎3階 テレビ会議室

【副本部長（小玉副知事）】

これより、北海道新型コロナウイルス感染症対策本部の第61回本部会議を開催します。
まず、道内の感染状況等について、新型コロナウイルス感染症対策監から説明願います。

【原田新型コロナウイルス感染症対策監】

資料1をご覧くださいと思います。

道内の感染状況です。道独自の警戒ステージの指標についてでございますが、昨日時点
で、感染経路不明割合を除きまして、前の週を下回っているという状況です。

国の分科会提言で示された指標の関係ですけれども、昨日現在、全道では、療養者数が
国のステージⅣの目安を、確保病床の使用率及び入院率が国のステージⅢの目安を上回っ
ておりますけれども、その他の指標はステージⅢを下回っている。また、札幌市について
は、全道より数値は高いですけれども、確保病床の使用率は、国のステージⅣの目安を下
回り、新規陽性者数についても国のステージⅢの目安を下回るという状況になっています。

全道の感染状況ですが、昨日までの直近1週間で389人、人口10万人当たり7.3人まで減
少しており、また、リンクなしの割合ですけれども、足元でちょっと上昇傾向がございま
して、38.6%という状況です。札幌市の状況ですけれども、全道同様に減少が続いており
まして、10万人当たり14.5人となり、リンクなしの割合についても、足元でちょっと上昇
しておりまして、42.4%という状況です。新規感染者数の札幌市と札幌市以外ですけれど
も、それぞれ減少傾向が続いているという状況です。地域別の感染状況です。昨日まで
の1週間の新規感染者数を比べますと、ほとんどの地域で減少しているという状況になっ
ています。発症日別の新規感染者数ですが、先月中旬のピークからの減少傾向が継続して
いるという状況です。年代別で見ますと、20代・30代の割合が足元でちょっと上昇してい
るということになっています。

監視体制ですが、検査数ですけれども、直近1週間で、20,140件とピークより半減して
おりますけれども、陽性率についても、1.9%まで下がっているという状況です。

病床ですが、全道の入院患者数は、今月に入って徐々に減少しておりまして、昨日時点
で、696人ですけれども、引き続き高い水準となっている状況です。重症患者数も、減少
が続いておりまして、昨日時点で25人となっております。

集団感染の発生状況ですが、今月は昨日までの状況ですけれども、事業所等の占める割
合が高くなっているという状況になっています。また、最近の1週間ごとの状況を見ます
と、ここ3週間は、札幌市と札幌市以外とも減少傾向が続いているということが見て取れ
ます。

引き続き、ワクチンの取組状況ですけれども、まず接種率等ですが、高齢者向けワクチ
ンの接種状況ですけれども、昨日現在で1回目の接種を終了した方が、65万7千人という
ことで、接種率は39.7%。2回目の接種を終えられた方は、19万9千人で、12.0%という状

況になっています。接種回数の推移ですけれども、直近1週間での接種回数は、約23万2千件となっていて、1日当たり平均で約3万3千回となっています。前の週からだいたい4千回分ほど増えているという状況です。

高齢者接種の動きについてですけれども、先週土曜から設置した集団接種会場についてですが、今週からは、北広島市及び当別町分の予約受付を開始しているという状況です。なお、接種センターにおける予約率は75.6%という状況になっています。

また、職域接種等の状況ですけれども、道内でも職域接種と大学拠点接種が順次始まっております。昨日17時現在ですけれども、138件の申請がありまして、申請ベースでは、対象者は累計36万人を超えるという状況になっています。職域接種を希望する業界団体の要請を踏まえまして、制度内容の周知等に取り組んでおりますけれども、昨日も、経済関係団体とのオンライン説明会でご説明しているという状況です。

昨日、新しいニュースがございまして、河野大臣会見が開かれる中で、モデルナ社製ワクチンを使用した職域接種の新規申請受付については、明日25日の17時で一時休止するということと、自治体の大規模接種に係るモデルナ社製ワクチンの新規申請についても直ちに休止するということが示されているという状況です。道といたしましては、ホームページにお知らせを掲載するほか、北海道経済産業局や先日設立いたしました経済関係団体感染症対策連携会議とも連携いたしまして、各経済団体やその構成団体に情報提供しているところがございます。また、今後、情報収集に努めますほか、国に対し、申請企業の接種開始予定日に間に合うスケジュールでの申請承認や情報提供を行っていただくなど、丁寧な対応を求めるとともに、自治体の大規模接種に影響を及ぼさないよう、モデルナ社製ワクチンの確実な供給を求めていくこととしております。

続いて、人出の状況です。札幌駅周辺の人出の状況ですけれども、緊急事態宣言以降、減少傾向が続いておりましたけれども、6月に入り、昼・夜ともに増加傾向にあるという状況です。また、すすきの駅周辺の状況ですが、札幌駅周辺と同様の傾向ではありますけれども、足元で、特に夜間の増加が大きくなっておりまして、注視が必要な状況です。

最後に総評です。まず全道の新規感染者数ですが、減少傾向が続いており、10万人当たり7.3人となっています。また、まん延防止等重点措置の措置区域である札幌市においても、減少傾向が続き、10万人当たり14.5人となっております。札幌市以外の地域では、10万人当たり3.2人という状況です。札幌市の主要な地点におけます人流は、6月に入り増加傾向が続いている状況です。

医療提供体制です。全道の入院患者数は減少傾向が見られるものの、引き続き、高い水準にある。札幌市内においても、病床の確保及び入院患者数の減少により、医療提供体制に一定の改善が見られ、入院患者数は、国のステージⅣの目安を下回ったものの、引き続き、厳しい状況が続いておりまして、警戒が必要な状況です。

ワクチン接種の関係ですが、65歳以上の高齢者への接種は、先ほど申し上げましたとおり、1回目39.7%、2回目12.0%が終了した。1日当たりの接種回数は、前週よりも約4千回増加して、約3万3千回となっているということです。また、職域接種についても、企業・団体から138件の申請があります。北海道ワクチン接種センターですけれども、6月24日現在での予約率が75.6%という状況になってございます。

デルタ株のスクリーニング検査の関係ですけれども、今後の感染拡大が懸念されるデルタ株につきましては、道立衛生研究所及び検査機能を有します10か所の道立保健所と、また、各保健所設置市において、原則、感染経路不明の陽性者の全ての検体の検査を実施しているという状況です。

今後の対策です。感染状況は大きく改善しておりますが、厳しい医療提供体制が続いており、感染が再拡大すると医療提供体制は急速に危機的な状況に陥るおそれがある。新規感染者数の減少傾向を継続させ、医療提供体制の負荷の低減につなげていくためにも、全道域において、感染防止対策、感染リスク回避行動の徹底に向けて取り組むことが必要。

また、特に措置区域の札幌市においては、新規感染者数をもう一段減少させることが必要。まん延防止等重点措置の下、札幌市と連携を図り、人と人との接触を抑えていくため、できる限り外出を控えていただくこと等について、様々な機会を活用して働きかけるとともに、飲食店等への見回りを機動的に実施してまいります。

札幌を除きます石狩振興局管内、小樽市、旭川市の経過区域においては、感染状況は大きく改善しておりますが、今後の大きなリバウンドを回避するため、関係市町村との連携の下、飲食店の時短等の遵守について働きかけてまいります。

ワクチン接種については、引き続き、市町村へのきめ細やかな支援を行うなど、希望する方が1日も早くワクチン接種を終えることができるよう取り組んでまいります。

資料1の説明は以上です。引き続き、資料2をご覧くださいと思います。資料1については、専門家及び有識者のご意見を伺うとともに、市町村や関係団体にも事前にお知らせしているところでございます。

有識者、専門家の方々からは、概ね妥当であるというご意見をいただいておりますが、その主なものについてご紹介いたしますと、(1-①)札幌市内の高齢者施設のワクチン接種が7月には終了できそうであり、それまでは厳しい措置でリバウンドを防ぐべきといったご意見や、(1-②)職域接種に関しまして、今後ともタイムリーな情報提供と企業への支援をお願いしたいといったご意見、(1-③)緊急事態宣言が解除され、まん延防止等重点措置へ移行したことにより、飲食店等の営業拡大し、人流の活発化が予想されるが、感染再拡大の兆しが見られた場合には速やかに必要な手立てを講じる必要があるといったご意見、(1-④)10代、20～30代の割合とカリンクなしの割合がやや増加傾向にあり、その後に感染者数が増えてくるパターンが今まで見られたということもあって、引き続き、感染対策の呼びかけをお願いしたいといったご意見や、飲食店の時短要請の関係では、人数を抑えること、飛沫が飛ぶ機会をできるだけ減らすことなどの注意喚起をお願いしたいといったご意見が寄せられております。こうしたご意見につきましては、今後の対策に活かしてまいりたいと考えております。

私からの説明は以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

次に、札幌市の感染状況について、山口感染症担当部長から説明をお願いいたします。

【山口札幌市感染症担当部長】

札幌市内の感染状況について資料3に基づいて、御説明をいたします。

それでは1頁目のスライドをご覧ください。新規感染者数の1週間の合計につきましては、ピーク時と比べまして、大幅に減少しております。昨日の6月23日時点では282人、人口10万人当たりでは14.4人と全国のステージⅢ、北海道警戒ステージ4の指標であります15.0を下回るところまで、減少してきてございます。

次の頁をご覧ください。札幌市民の入院患者数の状況などについてのグラフでございます。昨日時点の入院患者数は309人と減少傾向が見られ、入院を必要とする方がすぐに入院できない状況は解消されておりますが、新規感染者数の減少に比べまして、入院患者数

の減少速度が遅く、高止まりの傾向にありまして、入院受入医療機関の負荷が継続している状況でございます。

それでは、次のスライドをご覧ください。これは検査数でございます。直近の1週間の検査数につきましては、1万130件、1日平均にしますと1,450件の検査を実施してございます。陽性率につきましては、赤の折れ線グラフでございますが、昨日、6月23日時点で2.8%と、国が示す指標であります5%を下回っている状況でございます。

直近では、市内中心部で人流、人出の増加も見られていることや、全国的にデルタ株の感染拡大も懸念されていることから、引き続き、往来の自粛や人と人との接触の機会を抑える取組が必要と考えてございます。

また、速やかに新型コロナワクチンの接種ができるよう取組を進めておりますが、集団接種会場の整備、それから個別接種枠の拡大を図っているところでございまして、現時点では7月末には札幌市の高齢者の約8割の方々、また8月になりますと、札幌市の人口の約4割の方々、さらに11月末までには、札幌市の人口の約8割の方々に対して、2回目の接種が完了するように、現在、取組を進めている状況でございます。

以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】

次に各部・振興局から、順次発言をお願いいたします。

渡島総合振興局長、お願いします。

【鳴海渡島総合振興局長】

渡島管内における感染拡大防止の取組について、ご報告します。資料4をご覧ください。

振興局では、先月14日に本道が緊急事態宣言の区域に指定されたことにより、住民の警戒意識も高まることが想定されますことから、何としましてもこの期間内で感染拡大を抑えるという気概を持って、様々な取組を進めてきたところです。

まず、住民への周知啓発についてですけれども、これまでも振興局のインスタグラムやホームページ、あるいは地元のFM局などを活用して、感染防止対策の徹底について周知を進めてきたところですけれども、5月28日に緊急事態宣言が延長決定されたことを契機として、さらにきめ細かく周知するため、管内の大型商業店舗にご協力いただき、店内放送による周知啓発を実施したところです。さらに、週末の外出抑制を進めるため、毎週金曜日と土曜日に振興局職員が函館市内の住宅地を広報車で巡回し、日中を含めた不要不急の外出自粛を呼びかけてきました。

また、渡島管内の感染拡大を防ぐという点においては、管内で最も人口が大きく、周辺市町と生活圏が重なる函館市における取組を強化することが重要であることから、函館市とは、飲食店の時短実施状況の調査を共同で実施したほか、先ほどご説明した住民への周知啓発においては、基本的に連名でのメッセージとするなど、常に情報共有を図りながら、緊密に連携を図ってまいりました。また、管内の経済団体に対し、あらためて道の支援制度の活用や、出勤抑制などに関する周知について依頼をするなど、地域を挙げて取り組みを進めてきたところです。

5月16日以降の緊急事態宣言下においては、函館市内を含めた渡島管内では、集団感染事例が6件発生いたしましたものの、道内の他の地域と比較しますと新規感染者数は低く抑えられてきたものというふうに考えておりまして、地域の皆様のご協力に改めて感謝申し上げます。しかしながら、現在も人数は少ないものの、ほぼ連日新規感

染者が出ていることもありまして、楽観はできない状況にあります。今後は本格的な観光シーズンを迎える時期でありますことなどから、人流増化による感染拡大が非常に懸念されているところでありまして、あらためて地域の皆様に対し感染リスクを回避する行動の徹底を呼びかけていく必要があると認識しているところです。

このため、引き続き振興局のSNSや地元FM局などを活用していきますほか、新たに函館市、北斗市、七飯町を放送エリアとする地元のケーブルテレビにご協力をいただき、データ放送を活用したメッセージを発信できることとなりましたので、これまで以上にきめ細かく住民への情報提供や周知啓発に努めてまいります。

また、管内では複数の企業団体がワクチンの職域接種を申請している状況にあることから、振興局といたしましては、住民への周知啓発の徹底と並行して、感染防止の切り札となるワクチンの速やかな接種に向けて、管内各市町などと連携を図るなど、引き続き道南圏における感染拡大防止に向け、一丸となって体制を整えてまいる考えでございます。

渡島からは以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

その他、各部、振興局等からご発言ありませんか。

それでは、本部長からお話をお願いいたします

【本部長（知事）】

6月21日から、まん延防止等重点措置に移行をいたしました。緊急事態宣言の下、全道の新規感染者数は大きく改善をいたしました。本日の新規感染者数は26人ということで、10万人あたりでいうと6.45人ということであります。まん延防止等重点措置への移行後においても、この傾向を継続させていかなければなりません。

特に、本道の中心都市であり、他地域との往来が多い札幌市の感染状況は、道内全体の感染を抑制するための要所でもあります。札幌市については、他の地域よりも、より一層徹底した対策に取り組み、新規感染者数をもう一段減少させていかなければなりません。

7月11日までの間、札幌市内においては、まん延防止等重点措置の下、人と人との接触機会の低減を図るため、できる限り外出や移動を控えていただき、飲食店等では、20時までの時短をご協力いただくようお願いをいたします。特に酒類を提供する飲食店では、お店側は、アクリル板等の設置のほか、利用人数や滞在時間の制限など、利用者側は、4人以内、短時間での利用やマスクを着用しての会話の実践など、事業者の方々を利用者の皆様意識を共にして、徹底した対策を行っていく、このことが必要であります。その上で、19時まで（酒類の）の提供について、皆様にご理解とご協力をいただけるように、店舗の巡回の機会などにおいて、丁寧な説明を行ってください。

札幌市以外の地域についての対策も重要であります。緊急事態宣言の下で特定措置区域でありました石狩管内、小樽市、旭川市では、今後の大きなリバウンドの回避を行い、その他の地域においても、感染対策の徹底を図って、医療提供体制の負荷の低減につなげていく必要があります。

感染状況が改善をしてきますと、どうしてもリスクを甘く見てしまいがちになるというところがあります。しかしながら、厳しい医療提供体制、この点については続くとともに、変異株への置き換わりなどを踏まえすと、決して安心できる状況ではありません。特に、アルファ株よりさらに感染性が高いとも言われておりますデルタ株について、国の専門家の中には、国内において7月には7割、8月には9割が置き換わるといった推計を示して

いるといった専門家の方もおります。道では、アルファ株による感染の急拡大、このことを目の当たりにしてきたところでもあります。デルタ株への最大限の警戒、これを行っていく必要があります。各本部員においては、ここであらためて気を引き締め、7月11日までの間、デルタ株への警戒を強めながら、重点措置に基づく徹底した対策に取り組んでいただくように指示をいたします。

そして、ワクチンの接種についてであります。道のワクチン接種センターにおいては、これまで柔軟な対応に努めてきたところではありますが、地域のご意向も踏まえまして、北広島市、当別町にお住まいの方々からの予約受付が今週から始まったところでもあります。道全体の直近1週間の接種回数であります。現在、1日平均で約3万3千回ということになっておりますが、今後、さらに回数の増加を図る必要があります。市町村による高齢者向けの接種の加速に向けまして、引き続き、道としてしっかりとサポートをし、特に、最大の人口を擁する札幌市内の接種、これが極めて重要であります。今後とも札幌市と連携を密にしながら、円滑な接種を進めてください。

道内でも21日から職域接種、こちらも始まりました。国からは、生徒への集団接種についての考え方、こちらも示されたところではありますが、職場や学校において、ワクチンの接種を受ける、または受けないということによる差別的な取り扱いやいじめなどは、決してあってはならないことでもあります。道としても、これまで以上にこうした点に留意して、ワクチンの接種を進めていく必要があります。

最後に、昨日の河野大臣の会見についてであります。職域接種の新規申請受付について、明日25日で一時休止をするということが、急にではありますが、発表されたところでもあります。申請している道内の企業に混乱が生じることをないよう、そして、市町村の大規模接種、こちら新たにモデルナを活用したものについては直ちに休止をすることも併せて発表されましたので、市町村の大規模接種、これに影響を及ぼさないように今後の見通しなどについて情報収集を行って、ワクチンの確実な供給などについては、しっかりこれは国に求めていかなければならないというふうに考えています。地方本部においても、引き続き、市町村等に対するきめ細かな支援を進めて、希望する方が1日も早く接種を終えることができるよう、引き続き万全の対策で臨むんでいただくように指示をいたします。

私からは以上です

【副本部長（小玉副知事）】

本部長から指示があったことにつきまして、各本部員は必要な対応をお願いいたします。

以上をもって、新型コロナウイルス感染症対策本部の第61回本部会議を終了いたします。

(了)